

今年CDデビュー30周年を迎えたサニーデイ・サービス。 鬼才・カンパニー松尾監督の手により、キャリア初のドキュメンタリー映画 『ドキュメント サニーデイ・サービス』完成、劇場公開決定。

株式会社スペースシャワーネットワーク(本社:東京都港区、代表取締役社長:林 吉人)が運営する日本最大の音楽専門チャンネルスペースシャワーTVは、今年CDデビュー30周年を迎えるサニーデイ・サービスのキャリア初となるドキュメンタリー映画『ドキュメント サニーデイ・サービス』(監督:カンパニー松尾)を完成させ、自社レーベルSPACE SHOWER FILMSの配給で7月7日(金)より渋谷シネクイントほかにて劇場公開が決定いたしました。

※音楽専門の放送局として視聴可能世帯数が日本最大(2023年2月時点 自社調べ)



©2023 ROSE RECORDS / SPACE SHOWER FILMS

CDデビューから30年。フォーク、ロック、ギターポップ、ヒップホップ…。ありとあらゆる音楽を飲み込み吐き出し続ける変幻自在のロックバンド“サニーデイ・サービス”初のドキュメンタリー映画が完成。

1992年、曾我部恵一と田中 貴らを中心に結成された“サニーデイ・サービス”。メンバーチェンジを経て1994年メジャーデビュー。翌1995年に1stアルバムにして日本語ロックの金字塔『若者たち』を発表。以降、怒涛の楽曲制作、突然の解散、ソロ活動、インディレーベルの設立、再結成。そして、メンバーとの死別、新メンバー加入など。バンドとして苦難の道を歩みながら、これまでに14枚のアルバムを発表し、今も活動を続ける彼らを、2020年春から監督カンパニー松尾のカメラが追った。刹那を生きる、不屈のロックバンド サニーデイ・サービスの90年代から現在までをメンバー、関係者によるバンドの歴史や解説、膨大な楽曲の中から選りすぐられた初公開含む、新旧貴重なライブシーンを織り交ぜた2時間25分におよぶ壮大なドキュメントロードムービーです。2023年7月7日(金)より渋谷シネクイントほかにて劇場公開決定。

タイトル: 『ドキュメント サニーデイ・サービス』

※「ドキュメント」と「サニーデイ・サービス」の間に半角スペース。「サニーデイ」と「サービス」の間の「・」は全角

クレジット:

製作: STUDIO ROSE LTD. SPACE SHOWER NETWORKS INC. | 制作: ハマジム

プロデューサー: 高根順次

監督・撮影・編集: カンパニー松尾

出演: サニーデイ・サービス、曾我部恵一、田中 貴、大工原幹雄、丸山晴茂、渡邊文武、藏本真彦、新井 仁、杉浦英治、北沢夏音、やついいちろう、山口保幸、阿部孝明、小宮山雄飛、ワタナベビー、夏目知幸、安部勇磨 他

ナレーション: 小泉今日子

2023年 | 日本 | カラー | ビスタ | 145分 | DCP | 映倫審査前

配給・宣伝: SPACE SHOWER FILMS

©2023 ROSE RECORDS / SPACE SHOWER FILMS

公開表記: 2023年7月7日(金)より渋谷シネクイントほかにてロードショー!

※7月21日(金)よりセンチュリーシネマ、京都みなみ会館、シネマート心斎橋にて公開、以降 横川シネマほか全国順次公開

☆場面写真、メインビジュアル、特報などのデータはお手数ですが、こちらからダウンロードをお願いいたします。

※ダウンロード期限: 2023年3月24日(金)

<https://14.gigafile.nu/0324-qc7b8e1838c298d8cf8929798fef7d114>

公式HP | <https://films.spaceshower.jp/sunnyday/>

※2023年2月24日(金)正午に公開となります。

メインビジュアル



特報

https://youtu.be/FIB1l_Mblc0

※2023年2月24日(金)正午に一般公開となります。

『ドキュメント サニーデイ・サービス』劇場公開に寄せて

今回、とあるきっかけでサニーデイ・サービスのドキュメンタリーを撮ることになり、2020年春から2021年秋までカメラを回した。撮影を始めた2020年春、サニーデイは、新メンバー大工原幹雄（たいくはらみきお）の加入、13枚目のオリジナルアルバム『いいね！』の発売、さらに全国ワンマンツアーも予定され、さあ、これからというタイミングでパンデミックが起き、世界が変わった。緊急事態宣言が発令され、音楽活動も休止となり、先が見えない中、徐々に活動を再開し、もがき葛藤しながらも、音楽を通じて個人や社会とコミュニケーションしながら進んでゆくバンドの姿を目撃した。ボーカル曾我部さんのこうありたいという意志や溢れ出る感情、ベース田中さんの頑固さとラーメンへの偏愛、ドラム大工原さんの快活さと大胆さ、そんなこんなを乗せて、バンドは北は北海道から南は九州まで車で走る。その道中、曾我部さんや田中さんが握るハンドルの横でいろんな話を聞いた。たぶん、大工原さんが入ったことで、いい意味フレッシュな関係になり、バンドが成長する過程として、過去の話も含め色々話せたと思う。さらにツアーの合間にサニーデイを知る多くの関係者からバンドの歴史や逸話を聞いた。なんせ1992年の結成からメジャーデビュー、解散、再結成までしてるバンドだもん、出るは出る面白い話が…そんなこんなをまとめたら2時間25分になった（汗）。もちろん、サニーデイはバンドであり、バンドの思いは音楽で表現されている。なので、その音楽を映像でどう見せ、何を伝えるのか、そう考えながら作った。活動30年の歴史と重みを踏まえつつ、新旧の貴重なライブシーンで綴る最新最高のサニーデイ・サービスです。もし、よかつたらサニーデイとのちょっと長いドライブにお付き合いください。ちなみに撮影で全国を回る中、曾我部さんとはカレーを食べ、田中さんとはラーメンを食べ、みなさんとはうどんを食べました（太った）。そんなタイプ、コスバじゃない、時間をかけた栄養たっぷりの映像を是非、体感してください。待ち合わせは、全国各地のスクリーンにて。あと、実は僕自身が、1994年のデビュー以来、ずっと彼らのファンでした。そして、今回の撮影を通じてもっともっと好きになりました。

—— 2023年春 監督 カンパニー松尾

バンドがCDを初めて出してから30年経ったのだという。あの頃はお金もなくて、レコーディングや練習をするたびに、ぼくは借金を作っていた。そんな頃の自分もこの映画には映っている。長く続けようと思ったわけでも、使命感に駆られたわけでもなく、ただがむしゃらにやってきただけだ。その得体の知れない「がむしゃら」の正体を、カンパニー松尾監督は撮ろうとしたんじゃないかな、と思う。独善的で、無責任な30年だ。ただただ楽しくありたいが、そうじゃないことも多々ある。そんな空気もこの映画には映っているかも知れない。正直な話、なんにもわからずにやっているのだ、ぼくはこのバンドを。でも、「生きている」とは言える。誰の何のためになるかわからなくても、生きている。と。いちど解散したら、一回死んだ、とも言える。しかし、復活して、まだなにやら、やっている。死んでしまった晴茂くんは、どんな気持ちだったんだろう。このところ、そんなことを考える。

30年やっても、やり足りないと感じるのは、満足がないからか。いつか満足できるだろうか。思えば、どうしても幸せになりたいくて、始めたことだった気もする。幸せというのはどこにどんな形で転がっているのだろう。映画の中に風船が風に舞うシーンがある。いちばん好きな場面だ。この可愛くて色っぽい絵の先に、幸せについての逡巡に対する美しい解答が示されているような錯覚をおぼえる。2番目に好きなシーンは、クリスマスの雑踏。エスカレーターのシーン。幸せはひょっとしたら、この絵のなかにあるんじゃないか？

松尾監督の映像は素直で、そして可愛くて、色っぽい。ともすれば川面の油の反射のようにギラつくばかりのぼくらの日々に、こんなにポップな色をつけてくれたことを感謝している。

—— 曾我部恵一（サニーデイ・サービス）

サニーデイ・サービス、カンパニー松尾監督への取材、絶賛受付中です！

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社スペースシャワーネットワーク 放送事業本部 編成制作部 制作課 SPACE SHOWER FILMS

配給担当：近藤順也（TEL：090-6725-3470/FAX：03-3585-3215/jkondo@spaceshower.net）

宣伝担当：高根順次（TEL：090-6562-4070/FAX：03-3585-3362/takane@spaceshower.net）

有限会社スタジオ・ローズ ROSE RECORDS

担当：岩崎朗太（TEL：080-6562-9595/FAX：03-3466-5113/rota@rose-records.jp）

担当：水上由季（TEL：090-3962-5324/FAX：03-3466-5113/miz@rose-records.jp）